

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 飛騨家畜保健衛生所整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫対策係 電話番号：058-272-1111(内 2879)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,379,126 千円 (前年度予算額：207,681 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	207,681	0	0	0	0	0	0	154,700	52,981
要求額	1,379,126	0	0	0	0	0	0	965,800	413,326
決定額	1,371,700	0	0	0	0	0	0	965,800	405,900

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・平成30年9月に本県養豚場で国内26年ぶりに豚熱が発生し、以降、農場で続発するとともに、野生いのししでの感染も拡大している。
- ・家畜伝染病の対策では、①発生の予防、②早期の発見及び通報、③迅速かつ的確な初動対応が最も重要であり、地域の防疫拠点たる家畜保健衛生所の果たすべき役割は非常に大きい。
- ・飛騨家畜保健衛生所は、県下最大の飛騨牛産地及び県下最大の養豚農場を所管するが、病性鑑定機能を有さず、また設置後40年以上が経過し、施設の老朽化も著しい。

(2) 事業内容

- ・検査指導の迅速化及び病性鑑定機能の強化を図るため、飛騨家畜保健衛生所を移転・新設し、県の家畜防疫体制を強化する。

(R3 事業内容)

- ・建築等工事(本館棟、解剖・焼却棟、車両消毒棟)
- ・検査機器等整備

<全体整備計画及び全体概算事業費>

第1期工事（R1～3） 約16.6億円

・本館棟、解剖・焼却棟など

R1 調査設計

R2～3 建築工事

（3）県負担・補助率の考え方 県：10/10

（家畜保健衛生所法に定められた都道府県の必置施設の整備であるため）

（4）類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費（債務）	1,262,258	建築、設備等工事（債務負担 R2～3）
委託料（債務）	24,000	工事監理（債務負担 R2～3）
委託料（単年）	4,735	既存検査機器、施設備品の運搬、校正
備品購入費	76,620	検査機器、施設備品の購入
消耗品費	4,919	検査及び事務用消耗品の購入
使用料	2,684	借地、倉庫借上げ
役務費	147	収入証紙
その他	3,763	事務費（旅費、消耗品費など）
合計	1,379,126	

決定額の考え方

所要額を精査し計上します。

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（R1～5）

2 健やかで安らかな地域づくり

（2）安らかに暮らせる地域

④災害と危機事案に強い岐阜県づくり

・新「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～7）

（2）安心して身近な「ぎふの食」づくり

④家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
令和3年度中に飛騨家畜保健衛生所の主要施設（本館棟、解剖・焼却棟など）を整備し、家畜防疫体制の強化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

家畜保健衛生所整備のための経費であり、目標を定めることは適当ではない。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
主要施設（本館棟、解剖・焼却棟など）の建築設計を実施し、工事に着手。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
主要施設（本館棟、解剖・焼却棟など）について、令和2年度から工事着手したことにより、令和3年度中に工事を完了することができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	豚熱等海外悪性伝染病の脅威にさらされる中、既存の家畜保健衛生所は、施設が老朽化しているとともに、バイオセキュリティ上の問題も抱えている。家畜防疫体制の強化を図るためには施設の整備が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	飛騨家畜保健衛生所の主要施設（本館棟、解剖・焼却棟など）を整備することで、飛騨地域において緊急を要する病性鑑定が可能となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	施設を新築するにあたり、必要最小限の規模とするよう検討を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 家畜伝染病の防疫資機材を保管する倉庫及び家畜防疫車等の車庫がないため、早期に整備する必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 家畜保健衛生所の早期整備及び産業動物獣医師の確保対策により、家畜防疫体制の強化を図る。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	